

1000年先の未来へ。
美しい里、豊かな海



satoumi
project

Seto Inland Sea, Kagawa

かがわ里海大学2021 スキルアップ講座

ウミホテル観察会を 開くための講座

開催しました!



- 日時 2021年(令和3年)7月3日(土) 19:00~21:00
- 会場 高松市ヨット競技場・大の場海岸
- 講師 香川県立三木高等学校校長 塩田 浩之氏

7月3日土曜日、高松市ヨット競技場・大の場海岸で、かがわ里海大学2021スキルアップ講座「ウミホテル観察会を開くための講座」を開催し、19名が講座に参加しました。講師に、香川県立三木高等学校の塩田浩之氏を迎えて講座を開催しました。この講座は、ウミホテル観察会で講師という立場を目指す方々が参加し、実際にウミホテルを採集・観察して、その生態を学び、知識の引き出しを増やすスキルアップを目的として開催しました。

まず講師から、子どもたちに対して講座を行う際のコツについて解説がありました。子どもたちがワクワクするためのきっかけづくりや、安全に自然観察をするためにはしっかりとした下見が大切であると解説がありました。





その後、海岸へ行き、ウミホタルの採集を行いました。参加者は事前に作成した採集器に砂利と餌を入れ、海に投げ入れました。観察する場所によって考慮しなければならない点についても解説があり、その中で、今回のような岸壁と、砂浜が続くような海辺では、採集器のヒモの長さを変える必要があるといった話がありました。



しばらくして採集器を引き揚げ、バットに海水を注ぎ入れると多くのウミホタルが入っており、青い光を見ることができました。ウミホタル自身が光っているのではなく、振動や温度によってウミホタルが放つ物質によって光っているということがわかりました。

青い光を観察した後は、実際にウミホタルを手のひらにすくって観察しました。肉眼でも観察できるほどの大きさのウミホタルが素早く泳いでいる様子を確認することができました。

今回初めてウミホタルを見る受講者からは、驚きの歓声があがっていました。



グラスにウミホタルがいる海水を入れ、冷水とお湯を注ぐとどうなるかという実験も行われました。ウミホタルの出す光る物質は酵素のため、温度によって見え方がどのように異なるか実際にやってみると、お湯のほうが青く光り続ける時間が若干長いようでした。また、最後には、勢いよく海水を地面に撒くと、青い光が美しく広がる「ウミホタルのじゅうたん」を観察できました。

子ども向けの講座では、見せ方や解説の仕方を工夫することで、覚えるのではなく五感での体験として記憶に残るという話があり、ウミホタルの講座を開催する場合に、子どもたちの興味を引き出すさまざまな方法を今回の講座で学ぶことができました。